

# くすのき

## ～ 平成30年度学校評価について ～

4月に学校だより「くすのき」で本校の教育目標をお知らせいたしました。その教育目標を達成するために、この一年間、教職員一丸となって教育活動を推進して参りました。

その達成状況やその達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが、学校評価の目的です。

学校評価には、本校教職員による評価「学校自己評価」と、学校評議員の方々に行っていただく「学校関係者評価」があります。

本年度も、実践目標の中から重点事項4つに絞り、学校関係者評価を行っていただきました。この結果を保護者の皆様に公表することで、学校の状況に関して共通理解を図りながら、次年度の学校運営の改善と教育水準の向上に努めたいと考えています。



本年度も、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございました。

### 【 教職員の自己評価・学校評議員による評価 】

評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

| 重点事項     | 児童に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度・習慣等は育っているか。<br>1. 挨拶等の基本的な生活習慣 2. 社会の決まり 3. いじめを許さない態度 |   |
|----------|--|---|
| 教職員の自己評価 | C  | 「氷丘っ子よい子大作戦」(挨拶・掃除・スリッパ・右側歩行・言葉遣い)を毎朝確認するなどして、意識付けができてきている。ただ、まだまだ挨拶が習慣化できているわけではない。また、道徳教育の一環として行った「ほめ言葉のシャワー」等の実践は子どもの自尊感情を高めていく上で効果的だった。いじめの未然防止にも繋がるので、子どもたちの人間関係形成にも効果がある教育活動を今後も継続していく。   |
| 学校評議員の評価 | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>高学年になると恥ずかしさから挨拶できない児童も見受けられるが、地域と連携し、根気強く挨拶運動を展開していただきたい。</li> <li>子どもとの対話が多いほど効果が上がる。「ほめ言葉のシャワー」を沢山かけてあげてほしい。</li> <li>人への思いやりが身につけばますます良くなると思う。今後も「考える道徳」の授業を推進し、実践の場で生かせるようお願いする。</li> </ul>     |
| 重点事項     | 登下校の安全対策は、十分に機能しているか。  |   |
| 教職員の自己評価 | B  | 保護者や地域の方々の見守り活動等の協力により、子どもたちの登下校の安全が守られている。ただ、子どもたちの様子から安全に対する意識をもっと高める必要がある。学級、学年、学校全体で交通安全指導を徹底していく。また、職員一人一人が危機意識を高くもって動けるように常に心がける。   |
| 学校評議員の評価 | B  | <ul style="list-style-type: none"> <li>特に北側道路の登下校が気になります。今後も児童への指導をお願いします。</li> <li>たくさん見守りの中での登下校ができている。また、登下校中の児童に挨拶や並び方を指導したら素直に対応している。保護者の挨拶に対する意識も高められたらいいと思う。</li> <li>今後も児童の安全意識を高める指導を継続し、しっかり安全を確かめて登下校できる子に育てていく必要がある。</li> </ul> |

| 重点事項     | 不登校傾向にある児童の理解や支援は、組織的に対応できているか。      |   |
|----------|--------------------------------------|---|
| 教職員の自己評価 | C                                    | 毎月、児童支援対策委員会を実施したり、様々な職員が関わったりして、学校全体で組織的に対応している。全く登校できていなかった児童が、少しずつ登校できるようになっている反面、支援を必要とする児童が増え、担任の負担が増加している。児童の変化やサインを見逃さず、未然防止に努めるとともに、これまで通り、組織的に迅速且つ複数での対応を心がけていく。   |
| 学校評議員の評価 | B                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の問題だけではない。家庭内の努力が必要だと思う。学校の問題だけではないことを考えると、限られた時間の中で先生方にはよく対応して頂いていると思う。</li> <li>難しい問題だが今までの対応は素晴らしいと思う。継続をお願いしたい。</li> <li>あまり学校が入り込まず、保護者の側面からの支援の方がよいのではないかと。</li> <li>各児童についての支援方法、関わり方を分析し検討する。そして、保護者との信頼関係を大切にし、スクールカウンセラー等の専門家も活用しながら取り組んでいただきたい。</li> </ul>            |
| 重点事項     | いじめの未然防止・早期発見・早期対応への組織的な取組は、機能しているか。 |   |
| 教職員の自己評価 | A                                    | 担任が人を思いやる心を育む指導を基盤に学級経営を行う、様々な立場の職員が連携して子どもたちの様子をよく見る、道徳教育を充実させる等の取組を行い、未然防止に努めている。また、「心の相談アンケート」を実施する、子どもたち一人一人と話す機会を設定する、年6回の教育懇談を実施する等、早期発見も心がけている。今後も様々な方法でいじめの未然防止・早期発見に努めていく。   |
| 学校評議員の評価 | B                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見、早期対応について、現状よくできている。最悪な事態にならない努力を評価してもいいのではないかと。</li> <li>定期的なアンケートの実施をもとに児童一人一人への対応に感謝する。これからも子どもたちが何でも話せる環境づくりを保護者とともにお願いしたい。</li> <li>一人一人と話す機会は子どもにとっても良いと思うので、今後もよろしくお願いしたい。</li> <li>ゼロにはできない分野で、対策の継続が必要だ。今後も道徳、人権教育を中心に全教育活動の中でいじめを許さない心を育て、未然防止に努めていただきたい。</li> </ul> |

「学校自己評価」と「学校関係者評価」の2つの「学校評価」で成果と課題が明確になりました。また、学校評議員の方々からは、学校運営についての提言もいただいております。来る平成31年度は、本年度の成果と課題を踏まえながら教育目標を達成するために、日々の教育活動をさらに充実させていきたいと思っております。

